

わかやま

No.30

和歌山県精神保健福祉センターだより 2007年1月

「犯罪被害者支援センターです」

NPO法人紀の国被害者支援センター 事務局長 辻 米彦

新年あけましておめでとうございます。

私も、「紀の国被害者支援センター」は、犯罪や事故などの被害に遭われた方々やそのご家族を精神的・物理的に支援するために、1997年（H9）5月に全国6番目の犯罪被害者支援センターとして設立された民間ボランティアによる支援団体で、その後2001年（H13）12月に特定非営利活動法人（NPO）紀の国被害者支援センターへ移行し現在に至っています。

テレビや新聞で報道されているように、犯罪や事故は連日のように全国各地で発生しています。被害者のご遺族は大切な家族の命を突然奪われ、心に大きな傷を受け耐えがたい現実と直面させられています。

犯罪や事故などによって、今まで体験した事がない事柄に直面して困っているとき、また今の気持ちを理解して聴いてくれる人がいない時など、当支援センターで相談に応じています。また必要に応じて公的機関、関係機関の紹介なども行っています。

折しも、2004年（H16）12月犯罪被害者の権利・利益の保護と支援をうたった「犯罪被害者等基本法」が設立し、翌年4月に施行され、2005年（H17）12月に「犯罪被害者等基本計画」が閣議決定されました。

基本計画では、犯罪被害者等の方々の権利・利益の保護が図られる社会を実現するため、国の行政機関を始めとした関係諸機関が連携・協力しそれぞれの施策について犯罪被害者等の方々の視点に立って取り組んでいく体制などを規程しています。和歌山県では、和歌山県安全・安心まちづくり条例第28条に「犯罪被害者等に対する支援」が条文化されました。

上記犯罪被害者等基本法が制定され社会に向けた取り組みとして、昨年10月3日の「犯罪被害者支援の日」に合わせて、岩出市のミレニアシティ岩出店に於いて、歌手「宝子」さんを迎え「県警音楽隊による演奏会」を開催、また、11月25日～12月1日の「犯罪被害者週間」に合わせて、山口県光市母子殺人事件のご遺族本村洋さんの「犯罪被害者の現状と必要な支援」と題しての講演、ならびに付属池田小学校児童殺傷事件被害者のご遺族本郷由美子さんの手記「虹とひまわりの娘」の一節を朗読して啓発活動を行いました。

これからは、誰もが犯罪被害者になりうる現実の中で当支援センターだけでは限界があります。和歌山県、和歌山県警察、各市町村、他関係団体との連携とご協力を得ながら対応していかなければなりません。関係機関・関係各位のご協力を切にお願いいたします。

もくじ

- P 1 犯罪被害者支援センターです
- P 2/3 「わかやまこころのフェスティバル2006」
& 「こころがほっとするメッセージ」表彰
- P 4 たけのこ会
- P 5 メンタルヘルスニュース 所長のひとりごと
- P 6 はーとふるネットワーク
「紀の川・岩出生活支援センター 里中 麻希さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>

わかやまこころのフェスティバル2006を開催しました

県民のこころの健康の保持・増進と、こころの病を持つ人に対する正しい理解を広めることを目的として「わかやまこころのフェスティバル2006」を開催しました（人権フェスティバル2006と共催）。

19日にはわかやまこころのフェスティバルステージイベントを開催しました。

両日、精神保健福祉関連団体による趣向を凝らしたブースも出店され、多くの方々のご参加の下、盛況に終わりました。

実施日時

平成18年11月18日（土）10:00～17:00

11月19日（日）10:00～16:00

実施場所

和歌山ビッグホエール（和歌山市手平2-1-1）

ステージイベント（19日（日）13:30～15:40）

オープニングコンサート

出演者：精神障害者小規模作業所
「ピア下津作業所」の皆さん
楽器演奏「アジアンドリームソング」

初めての演奏でメンバーの皆さんは大変緊張されたようですが、アジアンティストいっばいの打楽器の音色に会場の皆さんは癒されました。



和歌山県精神保健福祉協会長表彰受賞者の皆様

コンサート「～沖縄の光と風～沖縄民謡と舞踊」

琉球国太鼓の皆さんによる舞踊（エイサー）と沖縄民謡歌手の伊礼 哲さんファミリーによる沖縄民謡。最後はステージと会場が踊りの輪で盛り上がりました。



「こころがほっとするメッセージ」入賞者表彰式

（和歌山県精神保健福祉協会と共催）

今夏、一般から募集した「こころがほっとするメッセージ」の入賞10名の方の表彰式を行いました。

和歌山県精神保健福祉協会長表彰式

（和歌山県精神保健福祉協会主催）

精神保健福祉の推進に貢献された5名の方々が和歌山県精神保健福祉協会長より表彰されました。

（永年勤続功労表彰）

橘 嘉子さん	県立医科大学附属病院
須井 弘子さん	（医）宮本病院
木原 早苗さん	（医）浜之宮病院

（特別功労表彰）

道本 雅子さん	小規模作業所 「海南ワーク」非常勤職員
佐竹 英信さん	農業・社会参加リハビリ テーション事業主

フェスティバル参加団体（展示・作品販売・模擬店等）

AA和歌山グループ、家族会「紙ふうせん」、「ピア下津」、「あすなる共同作業所」、共同作業所エルシディオ、つばさの会を支える会、(NPO) レインボーハウス、(NPO) 和歌山県精神障害者家族会連合会、(NPO) 和歌山県断酒連合会、和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会、和歌山県精神科病院協会、和歌山県精神障害者団体連合会、和歌山県精神保健福祉協会、和歌山市精神障害者家族会「つばさの会」、和歌山ダルク



「こころがほっとするメッセージ」表彰

趣旨

こころの健康維持には適当な休憩が大切です。県民の皆さんに普段の生活の中で、こころがほっとするメッセージを5・7・5の17文字につづってもらい、精神的健康の保持増進を見つめ直す機会を提供します。

主催

和歌山県・和歌山県精神保健福祉協会

応募状況

募集期間 平成18年8月1日(火)～9月25日(月)
応募数 1,466(昨年より500を上回る応募となりました)

審査及び表彰式

10/11 審査委員による審査の結果、下記の作品が入賞作品に決定しました。
11/19 わかやまこころのフェスティバル2006の会場に於いて入賞者の表彰式を行いました。

「こころがほっとするメッセージ」入賞作品

(10点 敬称略 アイウエオ順)

言われたい

だから言いたい

ありがとう

猛練習

友と目が合い

笑みかわす

初勝利

僕の笑顔に

母 涙

「約束ね」

からめた小指

あつたかい

梅干して

香りあふれる

祖母の家

夕花に

水を与えて

とる疲れ

おとうとが

できたよおおきな おめめだよ

「こんにちは」

名前も知らない

あなたにも

背比べ

抜かれる母は

嬉しそう

まごをみる

おっとのかおの

そのえがお

紀美野町 山本 すみ子(56歳)

泉佐野市 森實 彩馨(11歳)

田辺市 向井 愛実(14歳)

和歌山市 藤田 丈瑠(6歳)

上富田町 平野 雅裕(55歳)

田辺市 日向 智絵(11歳)

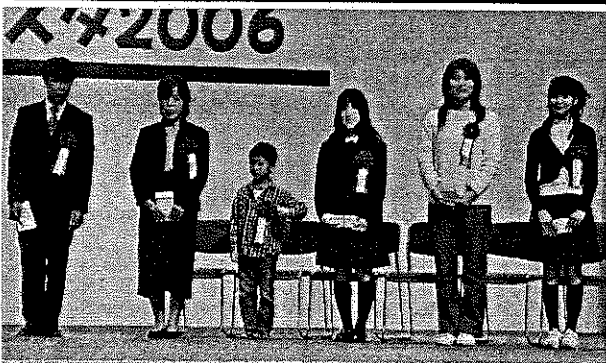
紀の川市 馬場 栄子(62歳)

海南市 谷口 一慧(11歳)

田辺市 谷 捺美(14歳)

和歌山市 田中 克則(27歳)

※ 本年度は、優秀賞の該当作品はありませんでした。



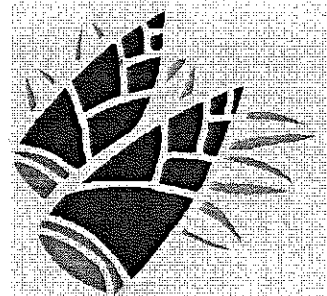
← こころがほっとするメッセージ入賞 の皆様

このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。

今回は、障害者総合社会復帰施設 あるべじお利用者の会 たけのこ会 会長の山本 猛さんにお話を伺いました。

障害者総合社会復帰施設 あるべじお 利用者の会

「たけのこ会」



社会福祉法人 筍憩会 あるべじおは、滋賀県立体育館で開催されたソフトバレーボール近畿大会に和歌山県代表として参加しました。初戦は2-0と圧勝し、見事勝利することができました。

2回戦は地元滋賀県代表チームとベスト4でぶつかり、1セット目は、1点もとれないまま15-0の完封で終わりました。2セット目から大反撃を見せまして、私の7連続サーブが見事に決まって一度は追いついたんですが、結局2-0で負けて、決勝進出は出来ませんでした。悔しかったです。悔しかったです。見事3位になりました。

どうやって3位になったかと言うと、セット率で3位のチームと一緒にだったので銅メダルを手に入れました。でも3位になれてよかったです。

近畿大会は11月の下旬でした。また今年のソフトバレーボール大会 和歌山県大会で優勝してもう1度近畿大会へ行きたいです。

次に、平成18年10月6日にあった「わされん運動会」ですが、競技の中でアームレスリングがあって、私は快進撃で決勝まで進みましたが、惜しくも準優勝に終わってしまいました。悔しかったです。今年こそは2年連続で決勝へ進み、優勝したいです。



チームのみんなで記念撮影

今年も頑張るぞ！！

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

セルフヘルプセミナー

10月21日(土)に人権ギャラリー研修室で開催されました。「いいかげんに生きよう NABA活動編」のビデオ上映と、セルフヘルプグループの体験・活動発表、合同の出会いミーティングを行い、40名の参加がありました。

小さな秋のこころのふれ愛展

10月21日(土)に精神保健福祉センター交流ロビーにて開催しました。精神障害者家族会連合会、精神障害者団体連合会、断酒連合会、精神科病院協会等による作品展示、アルコールパッチテスト、ビデオ上映などが行われました。

市町村及び保健所職員合同研修

11月9日(木)・10日(金)の二日にわたりビッグ愛にて開催しました。研修内容は「自殺対策基本法」の施行を受けての自治体で取り組むべきうつ病・自殺対策の基礎とノウハウを県立医科大学保健看護学部山田和子教授と北端所長より講義いただき、後半は、こころのレスキュー隊員養成基礎研修と合同で「災害時の心のケア」について学びました。

こころのレスキュー隊員養成基礎研修会

11月10日(金)にビッグ愛で「災害時の心のケアと防災計画」というテーマで、兵庫教育大学教授の岩井圭司先生を招いて講演会を開催し62名の参加がありました。12月5日(火)には子ども障害者相談センターで、「緊急支援をする人の支援について」というテーマで、武庫川女子大学助教授の倉石哲也先生を招いて、講義とロールプレイを行い80名の参加がありました。

社会的ひきこもり家族教室

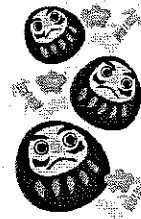
11月24日(金)、12月11日(月)、22日(金)に、精神保健福祉センターにて開催しました。和歌山大学保健管理センター所長の宮西照夫先生や、橋本市教育相談センター長の木下忠恭先生の講義の後、困っていることなどについてグループワークを行いました。延51名の参加がありました。

SST研修

12月7日(木)・8日(金)の二日にわたりビッグ愛にて開催しました。当センターでは過去3年間SST初級研修を開催してきましたが、今年度は医療機関や施設で実際にSSTを行っている18名を対象にスキルアップを目的とした研修会を開催しました。講師はルーテル学院大学大学院の前田ケイ教授で、長年の経験と理論をもとに楽しく充実した演習をしていただきました。

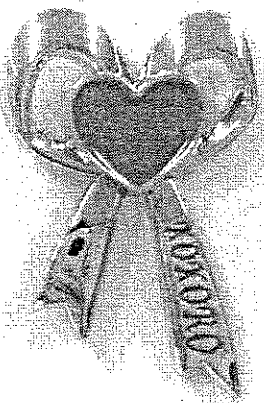
こころのレスキュー隊員実践研修

12月23日(土)24日(日)にビッグ愛で開催しました。「体験CRT」と「報道対応」について、山口県精神保健福祉センター所長の河野通英先生を招いて演習中心に行われました。4グループに分かれ、計画作成から記者発表のロールプレイ等、実践的な研修を行いました。



所長のひとりごと

「こころのケアバッジ」、ご存知ですか？



「こころのケアバッジ」は鹿児島県川薩保健所で「うつ・自殺予防対策」の一環として作成されたもので、「こころの悩みを抱える方々を応援します」という意思表示の意味がこめられています。

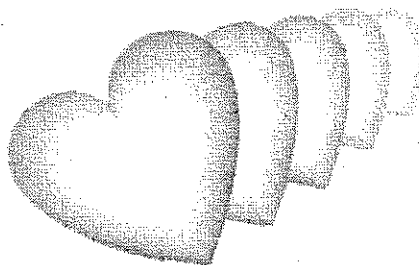
(http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/kenko-iryo/utu/ututaisaku_goods.html)

今回、「こころのレスキュー隊」のシンボルとして、川薩保健所より複製の許可を得ました。

現物は当センターに一つだけありますが、所内、特に女性陣から、「かわいい、かわいい」と黄色い声援が飛んでいます。

当所では従来より、こころの健康のシンボルとして「WAKAYAMAバッジ」を作成しております。

(残りはごく少なくなっていますが……)
合わせて活用していきたいと考えています。



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、紀の川・岩出生活支援センターの里中麻希さんです。

はーとふるネットワーク



— 紀の川・岩出生活支援センターでの勤務はどれくらいになりますか？

昨年12月で丸3年が過ぎまして、4年目になります。

— 相談員になられたきっかけは？

今の職場で、学習会があった時に施設長に声をかけて頂きました。大学時代「プラットホーム」という不登校支援サークルで活動していた折りに、支援センターのスキーマに参加したことがきっかけです。人との出会い、縁は不思議なものだと思いました。

— この仕事をしていて良かったと思う時はどんなときですか？

たくさんの人と出会えることです。また、仕事を通じてスキューバダイビングや働く障害者のビデオ制作等、様々な体験が出来ました。何でも経験させてくれ、バックアップ、フォローしてくれる上司や同僚がいるという環境も恵まれていると思います。

— 仕事で苦勞する点はどのようなことですか？

相談をうける仕事が多いです。使える制度や社会資源等、次々と変化する精神保健福祉の知識を学ぶ必要もあるし、人間的にも幅のある人になりたいです。

— 紀の川・岩出生活支援センターのPRを一言お願いします。

紀の川市の相談支援事業、不登校、ひきこもり支援、紀の川・岩出地域の福祉ネットワーク等、様々なことをしています。昨年2月に24号線のバイパス沿いに移転しましたので、お気軽にお立ち寄り下さい。

— 休日にはどのように過ごされていますか？

実家へ行ったり、友人と遊んだりして過ごしています。障害のある仲間と、よさこい踊りをしたり、ヨガをしたり、日頃運動不足なので、体を動かすのも好きです。

— 今後の抱負を教えてください。

健康管理に気をつけて、丁寧な仕事ができるようにしたいです。個人的には、資格試験の勉強を頑張りと、支援センターの職員としても、出来ることから仕事を深めていきたいと思っています。

— 里中さんから、次の方のご紹介をお願いします。

きれいでしっかり者の、ピア下津の梅本幸（うめもとゆき）さんを紹介します。和歌山県共同作業所連絡会（わされん）の教育研修部員として、公私共々（？）お世話になっています。快くひきうけて下さった梅本さんに感謝して、バトンを渡します。よろしくをお願いします。

研修等のお知らせ

○ 社会的ひきこもり講演会

日時：H19年2月17日（土）13:30～
場所：有田振興局会議室
対象：一般県民
定員：100名
講義：「社会的ひきこもりとは」
和歌山大学保健管理センター所長
宮西 照夫（精神科医）
：「社会現象として見た社会的ひきこもり」
毎日新聞記者 村瀬 達男

○ こころの健康講座

日時：H19年2月21日（水）13:30～
場所：和歌山県子ども・障害者相談センター3F
多目的ホール
対象：一般県民
定員：150名
講演：「日常ストレスにおける対処法」
講師：黒川内科（心療内科）院長 黒川 順夫

○ こころのレスキュー隊員実践研修

日時：H19年2月25日（日）
場所：和歌山ビッグ愛6階会議室
対象：隊員登録ならびに隊員仮登録希望者
講師：相愛女子大学講師 岡寄 順子
内容：心理教育と集団療法について

○ 喫煙関連問題研修

日時：H19年3月3日（土）13:30～
場所：和歌山ビッグ愛2F 会議室
対象：一般県民
講義：「ギャンブル依存症の疾病と回復」
北海道立精神保健福祉センター所長
田辺 等
内容：GA、ギャマノン当事者による体験談
※ GA : ギャンブル依存症者の自助グループ
ギャマノン：ギャンブル依存症者の家族の自助グループ

社会的ひきこもり 青年の集い

日時：H19年1月23日（火）から
毎月第4火曜日 午後1時～4時
場所：県精神保健福祉センター フレイルーム
内容：ミーティングやゲームなどを行います

社会的ひきこもり フリースペース

日時：H19年1月30日（火）から
毎週火曜日 午後1時～4時
※ 但し第4火曜日は除く
場所：県精神保健福祉センター フレイルーム
内容：居場所の提供をしています

編集後記

明けましておめでとうございます。皆様の新年はいかがでしょうか。今年1年への思いを抱きながら気持ちを新たに
して、平成19年を迎えられたことと思います。猪突猛進の亥年で、前進！前進！